（事後Ｃ）

評価委員会総合評価

研究課題名：事例解析・比較及び数値実験による大雨の調査
評価委員
　委員長：隈健一
　委　員：高薮出、大野木和敏、安田珠幾、小泉耕、堤之智、青梨和正、
　　佐々木秀孝、鈴木修、橋本徹夫、山本哲也、石井雅男、丸本大介
評価年月日：平成 31 年２月 15 日

１．総合評価

□　非常に優れた研究であった。
■　優れた研究であった。
□　研究を実施した意義はあった。
□　失敗であった。

２．総合所見

本研究は、平成 30 年７月豪雨のような災害について、豪雨発生予測ワークシートを利用することによって、被害を軽減させることに寄与する可能性がある研究課題である。

本研究により、ＴＶ会議等による打合せを通じて、進捗、課題を整理し、研究所からも助言や追加の数値実験を実施するなど、短い研究機関の中で多くの成果をあげた。成果の発表も精力的に行われ、高く評価できる。研究の目標設定が高い困難なテーマでもあったが、地方の人材育成で一定の成果があったという観点で地方共同研究としては評価して良いものと言える。地方の人が意欲的に取りくんだ点も良かった。

目標としたワークシート作成には至らなかったものの、近いところまで進んだことは大いに評価できる。今後の現業への活用が期待できるので、引き続き進めていただきたい。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

なお、今後の研究成果の活用にあたっては、以下の指摘事項に留意して、取り組んで欲しい。

・ 現業的にうまく使えるようにフローチャート作成について現場の作業のフォローをお願いしたい。
・ 今後、本研究のような地方との共同研究を現業モデルの asuca ベースでできるよう期待したい。